

建築分野における地球温暖化防止のための世界的研究、プロジェクト支援、普及啓発活動に関する一連の業績

マーク D. レヴィン 殿

マーク D. レヴィン氏は、米国ローレンス・バークレー国立研究所、環境エネルギー技術部の首席研究員ならびに中国エネルギーグループのリーダーであり、また、2007 年ノーベル平和賞を受賞した IPCC (The International Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル) の代表者の一人である。同氏が部長を務める部は 400 人の研究者・職員をかかえており、建築のエネルギー効率向上技術、室内空気汚染防除技術、先端蓄電池、低 NO_x 燃焼などのクリーンエネルギー技術の研究を実施している。また、この部は建築のエネルギー効率向上のための政策に関して、世界のリーダー的な位置を築いてきた。

同氏は、Center of Resources Solutions の Chair、American Council for an Energy Efficient Economy and Center for Clean Air Policy の Director、Asia Pacific Energy Resource Center in Tokyo、Beijing Energy Efficiency Center、Shanghai Pacific Energy Center の Advisory Board の委員を務めるなどして、エネルギーと環境に関する米国内や世界の多くの非営利団体をリードしている。また、現在世界が注視している、中国におけるエネルギーと炭素未来プロジェクトのリーダーでもある。建築におけるエネルギー効率向上や CO₂ 排出量削減などに関する 100 以上の著書・論文を発表しており、特に Report for Scenarios for a Clean Energy Future の作成リーダーであり、The International Panel on Climate Change の第 2 次、第 3 次、第 4 次レポートの緩和技術の章の中で、建築分野の執筆リーダーとして分担し、取りまとめを行うなど、当該分野における最も著名な権威者の一人である。日本を何度か訪れており知己も多く、建築における省エネルギー技術や地球環境問題に関する講演等を通じてわが国における地球環境と都市・建築に関わる研究者・技術者に大きな影響を与えている。さらに、2008 年 11 月には、以上に示した功績により第 5 回大林賞 (財団法人大林都市研究振興財団) を受賞し、「建築における地球温暖化対策：IPCC の視点から」と題する記念講演を行った。

近年本会では、地球環境委員会を中心に、地球温暖化防止のための研究、技術支援、普及啓発活動などを積極的に行っており、その背景に、同氏の活躍の影響が直接間接的に認められることもさることながら、地球環境時代の今日、本会が同氏の業績を高く顕彰することにも時宜を得た意義が認められる。

以上のように、同氏は、建築の省エネルギー問題、温暖化防止技術などに関する世界的な研究業績が極めて多く、それに関連する研究プロジェクト支援や普及啓発活動を行ってきており、社会的貢献度も著しく大きい。また、我が国における地球環境・建築環境分野の研究者との共同作業や情報交流を通して、この分野に大きな影響を与えている。

よって、ここに日本建築学会文化賞を贈るものである。